

第 49 回国立大学法人動物実験施設協議会総会の参加報告

医学 生命科学実 班 畠山 照彦

1. はじめに 目的等

国立大学法人動物実験施設協議会は、大学等における動物実験の精度と水準の向上を図るとともに、正しい動物実験の実施を推進し、医学・理学・生物学等生命科学における教育及び研究の推進に寄与することを目的としている。本会は、年に一度開催され、会員校関係施設・専任教員・事務員・技員が主となり、サテライトミーティングや懇談会を通じて情報収集・意見交換を行うとともに、本会において様々な審議を行う場である。今年度より、私は技員委員会の委員として活動しており、本会の前日に開催された委員会に参加した。また、技員懇談会では、運営の助をうけた。

2. 期 場所

期 令和 5 年 6 月 8 日 木 ～ 6 月 9 日

場所 自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンターおよび岡崎ニューグランドホテル（岡崎市康生町）

3. 参加 等

国立大学法人動物実験施設協議会会員校の施設・専任教員・事務員・技員等

4. 研修内容

○6 月 8 日 木 17:00 - 18:00 技員委員会

○6 月 8 日 木 18:00 - 19:30 サテライトミーティング

・温度感受性 TRP チャンネルの生理機能

○6 月 9 日 9:00 - 12:00 技員懇談会

・技員の働き方の変化による業務の変化について

・講演「Modified-SHIRPA 法の紹介」

○5 月 19 日 13:00 - 17:00 会。

5. まとめと感想

8 日に開かれた技員委員会にて、翌日の技員懇談会の打ち合わせと、技員メーリングリストの活用方法について意見交換を行った。サテライトミーティングでは、生物が環境温度を感知する際のメカニズムについて、イオンチャンネル電流の介在と温度感受性 TRP チャンネル欠損マウスの行動解析を中心とした、温度感受性 TRP チャンネルの生理機能についての講演があった。

9日の技術懇話会では、東海国立大学機構統括技術センターの〇〇の〇〇を中心
に、所属する名古屋大学および岐阜大学による、〇〇化による業務内容の変化等の
〇〇〇〇があった。広島大学は技術員の〇〇化からだいぶ経過するが、〇〇化を始めたば
かりの大学にとっては、まだまだ試行錯誤の上の〇〇〇〇という印象があった。私も感じ
ていた分野外の評価にして、同じく皆さん戸惑っているようだった。

その後の講演では、マウスの全身を検査して身体的な表現型を網羅的に検出する
手法、『Modified-SHIRPA法』が〇〇〇〇された。この表現型評価法は、解析支援や動物
飼育担当の実動物に対する観察眼成にも効果的であることがわかった。

今回、技術員委員会の委員として初めて〇〇〇〇等に参加したが、今まではメールで
のやり取りのみで顔を合わせるのが初めてであった。他の大学の委員の方との交流す
ることで、情報がダイレクトで入ってくるので、やはり技術員の横のつながりを深
めていくことは重要だと改めて感じた。委員の仕事は任期が2年あるため、来年度ま
で継続する。引き続き委員との交流を深め、情報収集に努めることで、現在の業務に
も活かせるよう努めていきたいと考える。

以上